

第3章 浸水予測区域の検討方法

条件設定

津波・高潮の特徴を認識した上で、浸水予測区域の検討を行う。

検討にあたっては、対象とする災害の外力条件と災害時の施設の破壊形態・機能状況などの施設条件を適切に設定する。

一般的に条件設定が必要な項目

区分	津波ハザードマップ	高潮ハザードマップ
外力条件	1. 地震規模 2. 震源域(波源域) 3. 地盤変位 4. 潮位(天文潮) 5. 河川条件	1. 台風規模 2. 台風進路 3. 潮位(天文潮) 4. 河川条件
施設条件	1. 施設の破壊形態 2. 施設機能状況	

検討目的と外力レベル

外力レベル1	現実的に実感できる発生頻度の外力	・整備中などの段階で災害が発生した場合の対応検討 ・海水浴場など防護ラインより海側での災害に対する対応検討
外力レベル2	防護目標にかなう施設設計上の外力	・施設設計上の整備目標
外力レベル3	最悪の浸水状況をもたらす外力	・最悪の状況の検討

浸水予測における施設条件の設定例

施設の破壊形態については、津波ハザードマップにおいては、地震動による施設の破壊などを、高潮ハザードマップにおいては、高潮と同時に発生する高波による施設の破壊を考慮する。
 施設機能設定状況については、水門・陸閘等の防護施設の機能状況も考慮する。

浸水予測手法

浸水予測は、外力条件や施設条件を適切に反映し、作成目的に応じた精度を有する手法で実施。基本的には、精度の高い浸水深や流速、浸水開始時間等の時系列の情報を得ることができる数値シミュレーションによることが望ましい。

数値シミュレーションの実施が困難な場合には、簡便な方法による浸水予測を行うことも考えられる。

推奨する浸水予測手法：時系列を考慮した数値シミュレーションによる設定

